

# 日本各地で派生した 「スイス村」計画の変遷と現状

Changes and Current Situation of the Swiss Village Projects in Japan

河村 英和  
Ewa KAWAMURA

## 要 旨

スイス国外で、スイス・アルプスの山間の村を本格的に再現する「スイス村」が誕生したのは19世紀に欧米各国で行われた万国博覧会からであった。伝統的な民家や山小屋（シャレー）風の建物によって、スイスらしさを演出したものが多いが、日本ではTVアニメ「ハイジ」の放映後からバブル期に至る1970-90年代を中心に、テーマパークやまちづくり、レジャー・保養施設などで、スイス風の建物を集めた「スイス村」が興隆した。バブル崩壊によって計画倒れで実現しなかったもの、実現し今なおその姿を留めているもの、北海道から九州まで、日本各地に派生した「スイス村」が誕生する歴史的経緯と現状を追ってゆき、当時の日本人のスイスへの憧れを具現化したかのような国内のスイス村の数々が、バブル期に流行った外国のテーマパーク開業ラッシュと相まって、ハイジの人気とともにどのように展開・変化していったかを展望する。

キーワード：スイス村、テーマパーク、バブル、観光、リゾート、ホテル、ハイジ、アルプス、チロル

## 1. はじめに：TVアニメ「ハイジ」とともに

1974年に放映されたTVアニメーションシリーズ『アルプスの少女ハイジ』の影響によって、日本国内では70年代後半以降、スイス村といったスイス関連のテーマパークや観光施設がいくつ

も開業していった。スイスのヨハンナ・シュペーリ **Johanna Spyri** (1827-1901) が書いた児童文学作品『ハイジ **Heidi**』(1880年)が<sup>1</sup>、アニメ化されたことは、アルプス山麓の牧歌的な風景の中にたたくシャレー **chalet** (山小屋、山小屋風の建物) を視覚的に広めることとなり、スイス村やスイス風の建物を日本に広める一因であったのだろうか。

「ハイジ」は、東京のアニメ製作会社「瑞鷹 (ズイヨー)」のプロデューサー高橋茂人の発案によって実現した、海外での綿密な現地取材にもとづいた最初の日本のアニメだった。高橋は幼い頃からハイジを読んで登山が好きだったこともあり、ハイジのアニメを高品質な作品にするため、19世紀のスイスの町並みや風景の正確な作画にこだわった<sup>2</sup>。そのため高橋はハイジの舞台となるベルナーオーバーラント **Berner Oberland**、マイエンフェルト **Maienfeld** やサンモリッツ **St. Moritz** へ4人の若いスタッフを派遣した。一行はシュペーリがハイジの家のモデルとしたマイエンフェルトにある山小屋を取材し<sup>3</sup>、アニメに描かれたハイジの家は日本人のスイスの山小屋のイメージとして印象を残すこととなったが、そもそも高橋がスイスを舞台にしたハイジをアニメ化する以前、日本ではスイスのイメージを象徴する山小屋 (シャレー) への憧れがある程度あったようだ。すでにハイジの放映以前、日本には少なくとも3件のスイス料理店があった。東京に2件、六本木の「スイスイン」(1968年)と四谷の「スイスシャレー」(1964年、1978年に新宿の新宿野村ビル50階に移転)、もうひとつは1973年に神戸にできた「スイスシャレー」という店で、スイスの山小屋風の内装だった。また1970年よりゼリーナ・ヘンツ **Selina Chönz** (1910-2000) の子供向け絵本が、日本でもスイスの判型と同じ大判で出版されるようになったが<sup>4</sup>、そこにもグラウビュンデン **Graubünden** の風景や伝統民家やシャレーの姿が、アロイス・カリジェ **Alois Carigiet** (1902-1985) による芸術的に洗練された挿絵で我々の目に触れるようになり、スイスの山間の村への関心はそのようなところでも喚起されてきた。

そこで本稿ではTVアニメ「ハイジ」の放映後からバブル期に至る1970-90年代を中心に、日本各地に派生した「スイス村」が誕生する経緯と現状を時系列順に辿ってゆき、当時の日本人が

---

1 「ハイジ」の最初の邦訳は1920年、野上弥生子 (1885-1985) によって翻訳された『世界少年文学名作集 第8巻』(家庭読物刊行会) に収録されたものである。野上訳が1941年に岩波文庫に加わったさい、『アルプスの山の娘：ハイヂ』と改題されたが、TVアニメーションのタイトルと同名の題名となった邦訳は、1951年の阿部賀隆訳の『アルプスの少女ハイヂ』(アテネ出版社) だった。

2 ちばかおり『ハイジが生まれた日—テレビアニメの金字塔を築いた人々』岩波書店、2017年、pp. 5-19.

3 上掲書、pp. 72-80.

4 カリジェの挿絵が入ったゼリーナ・ヘンツ作の絵本『ウルスリのすず **Schellen-Ursli**』(1945年) と『フルリーナと山の鳥 **Flurina und das Wildvöglein**』(1952年)の最初の日本語訳は1954年、これらを同時に収録した『アルプスのきょうだい (岩波の子どもの本)』(岩波書店) であるが、スイスの原書よりも判型が小さかった。カリジェの日本での名声は、1990年代にイラストレーターの安野光雅がカリジェを紹介した著書『カリジェの世界』(1992年、日本放送協会) の出版でさらに広まった。

抱いたスイス・アルプスと山小屋・シャレー風の建物への憧れが、バブル期に流行った外国のテーマパーク開業ラッシュと相まって、ハイジの人気とともにどのように展開し変化していったかを明らかにする試みとしたい。

## 2. 欧米で開催された万博内のスイス建築・スイス村<sup>5</sup>

前史として、欧米でのテーマパーク的存在のスイス村（住宅区域をスイス村と称する例はもっと古くからあるが、それについてはここでは扱わない）、すなわち戦前に開催された万博内でつくられたスイス村には、どのようなものがあったのかを時系列順に辿ってみる。

まず1867年にパリ Paris で開催された万国博覧会 *Exposition universelle* でのスイス館は、ギリシャ風の新古典主義様式の建物であったため、スイスらしい典型的なシャレーの形ではなかった<sup>6</sup>。のち1873年のウィーン万博 *Wiener Weltausstellung* では、スイスやチロルのシャレーの形状をしたパヴィリオンができ、その中で最も目を引くのが、インターラーケン *Interlaken* の建築家リソルド *Risold* 設計のベルナーオーバーラント *Berner Oberland* 地方の民家を再現した「スイスの家 *Schweizerhaus*」である（図1）<sup>7</sup>。また1878年にパリで開催された万国博覧会では、スイスのパヴィリオンは少なくとも2種類、郷土様式（ハイマートシュティール *Heimatstil*）でデザインされた半切妻屋根のモニュメンタルなもの<sup>8</sup>、シャレー風の折衷様式の木造の建物があった。

いわゆるスイスの各カントン・地方の民家のサンプルを集結させた本格的な「スイス村 *Village Suisse*」が登場するのは1896年のジュネーヴ *Genève* での国家博覧会 *Exposition nationale suisse* からで、どこかの地方の村が出現したようなあまりに精巧な「スイス村」だった<sup>9</sup>。この造営にあたったのはランドスケープデザイナーのジュール・アルモン *Jules Allemand* とシャルル・エスベール *Charles Henneberg* で、このジュネーヴ博のスイス村を継承して同コンビによってつくら

5 この節は、筆者の伊語論文 E. KAWAMURA, *Tipi e vicende degli chalet e villaggi svizzeri “fuori dalla Svizzera’ fra Ottocento e Novecento* (19-20世紀にスイス国外で派生したシャレー建築とスイス村の類型と変遷について), in *La Città Altra*, Federico II University Press, Napoli, 2018, pp. 323-330 の1節「*Villaggi svizzeri nelle Esposizioni Universali* (万博内のスイス村)」(pp. 325-326)をもとに改稿したものである。

6 一方丸太積み目の壁のログハウスのようなチロルのシャレーはあった。*Grand Album de l’Exposition Universelle 1867*, Paris, M.L. Frères, 1868, XII, p. 45.

7 F. SALVISBERG, *Wiener Weltausstellung 1873. Schweiz. Bericht über Gruppe VIII. Holz-Industrie*, Schaffhausen, C. Baader, 1874, p. 7.

8 これは他国のパヴィリオンと両サイドが接している長屋形式のほうで、エントランス部分のファサードのみとなっている。

9 J. MAYOR et al., *Le Village Suisse à l’exposition Nationale Suisse. Genève*, s.l., s.n. 1896.



図1 ミヒャエル・ファルケンシュタイン撮影による1873年のウィーン万博の「スイスの家」(Wien Museum Online Sammlungの画像番号46B181より<sup>10)</sup>)

れたのが、1900年のパリ万博のときのスイス村である(図2)。シュフレン通り沿い Avenue de Suffren の21,000平米の敷地を使い、スイスの首都ベルン Bern のランドマークの時計塔 Zytglogge やスイス各地の有名な古民家が再現され、背景にアルプスを再現すべく人工の岩山や34メートルの滝まで造られた。折衷的なシャレー様式の公式パヴィリオンのファサードには22のカントンの紋章が掛けられ、ここではベルナーオーバーラントのアルプスのパノラマ画の展示や、特産ワインの試飲もできた<sup>11</sup>。

その他の国で行われた万博では、スイス村と呼べるほど規模の大きいものではなくパヴィリオン程度だったが、いずれもスイスの伝統民家をモチーフにした建物かシャレー建築で、スイスらしさを表現したものとなった。たとえば1906年のミラノ国際博覧会 *Esposizione Internazionale di Milano* では、ティチーノ州 Ticino 出身の建築家アウグスト・グイディーニ Augusto Guidini (1853-1928) 設計の折衷的な郷土様式のスイス館のほか、伝統的なシャレー建築にはスイス料理レストランが置かれた<sup>12</sup>。1911年のドレスデンでの国際衛生博覧会 *Internationale Hygiene-*

10 <https://sammlung.wienmuseum.at/en/object/567652-weltausstellung-1873-schweizerhaus-von-risold-zuerich-nr-672/> (2021年4月2日閲覧) 写真家ミヒャエル・ファルケンシュタイン Michael Frankenstein (1843-1918) が所属するウィーン写真家協会 Wiener Photographen-Association は、1873年のウィーン万博での専用パヴィリオンを構えており、その建物はシャレー様式となっていた。

11 *Paris Exposition 1900: guide pratique du visiteur de Paris et de l'exposition*, Paris, Hachette, 1900, pp. 299-300.



図2 1900年のパリ万博でのスイス村（当時の絵葉書より）

Ausstellung Dresden では、ベルン出身の建築家が設計したベルン州のシャレーの形をしたスイス館があった<sup>13</sup>。アメリカでは1907年<sup>14</sup>、ヴァージニア州ジェームズタウンで開催された博覧会 Jamestown Exposition で「スイス村 Swiss Village」（図3）が造営されたが<sup>15</sup>、建物は伝統的なシャレーよりも19世紀末に流行した折衷的な郷土様式のハーフティンバー調のものが中心で、このときもアルプスを表現するための人工の岩山が背景に造られた。さらに1933-34年のシカゴ万国博覧会 Chicago World's Fair のスイスの村では、ジュネーヴの博覧会をモデルにしたパリ万博のときと同様に、典型的なシャレーやベルンの時計塔のあるスイス村が造られたが、そこまで精巧なものではなかったようだ<sup>16</sup>。

12 A. GUIDINI, *Esposizione Internazionale di Milano del 1906*, in «L'Edilizia moderna», 1907, p. 68.

13 *Die Bemalung des Schweizer Pavillon auf der Internationalen Hygiene-Ausstellung in Dresden 1911*, in «Schweizer Bauzeitung», voll. 57-58, 26, August, 1911, p. 121, tav. 23-24.

14 アメリカでは先立って1904年、ミズーリ Missouri 州セントルイス St. Louis で開催されたルイジアナ博覧会 Louisiana Purchase Exposition のさいに、スイス村はなかったが、類似したタイプの伝統的な民家や人工の岩山を含む「ドイツ・チロルのアルプス German-Tyrolean Alps」をテーマにした「チロル村 Tyrolean Village」が造られている。*Official Guide to the Louisiana Purchase Exposition*, St. Louis, The Official Guide Co., 1904, p. 124; p. 150.

15 J. LAMBERT, *Pennsylvania at the Jamestown Exposition 1907*, Philadelphia, Pennsylvania Commission, 1908, p. 13; p. 96.

16 *Official Guide Book of the World's Fair of 1934*, Chicago, A Century of Progress International Exposition, 1934, pp. 46-47.

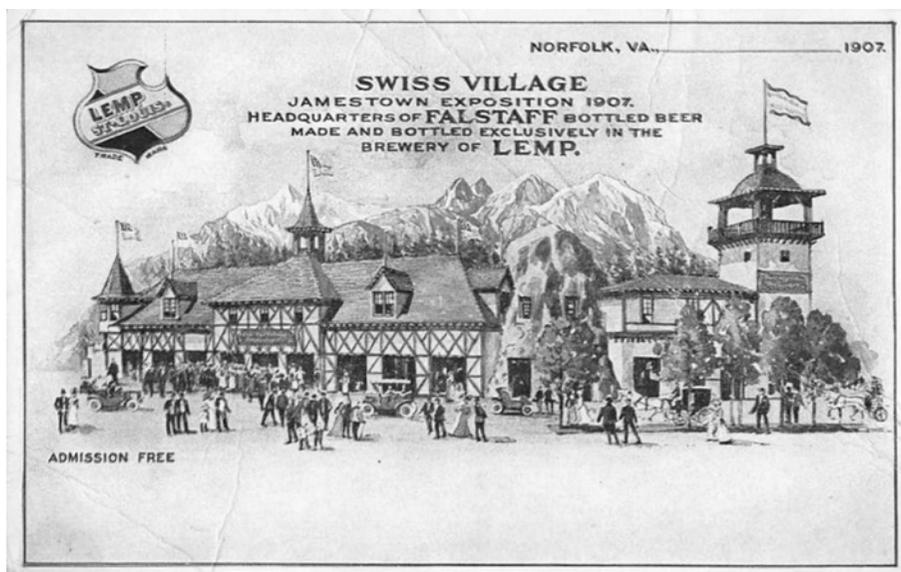


図3 1907年のジェームズタウン博覧会でのスイス村（当時の絵葉書より）

戦後に行われる万博では、どこの開催国でも各国代表のパヴィリオンのデザインによって斬新かつ最新鋭の建築美を競い合うようになったので、伝統的な民家やシャレーでスイス館やスイス村をつくるというような戦前の潮流は廃れた。むしろこのような疑似的旅行感覚を味わうための民家村のようなものを再現する娯楽は、万博会場ではなくテーマパークで求められるようになる。早い事例では、カリフォルニア California 州アナハイム Anaheim のディズニーランド Disneyland に登場した人工のmatterhorn Matterhorn を背景にしたスイス村で、そこには「スカイライド Skyride」（1956年）（図4）や「matterhorn・ボブスレー Matterhorn Bobsleds」（1959年）といったアトラクションができた。後者は、1865年のウインパー Edward Whymper（1840-1911）によるmatterhorn初登攀の史実を脚色したアルマン James Ramsey Ullman（1907-1971）の小説『天にはためく旗 *Banner in the Sky*』（1954年）を、ウォルト・ディズニー・プロダクションが映画化した「山の上の第三の男 *Third Man on the Mountain*」（1959年）の公開に合わせてつくられたものだった。

### 3. 日本各地にできたスイス村

スイスの民家を日本で鑑賞する行為は、まず世界の民家を集めた野外建築博物館に遡る。それは1951年9月、西武鉄道が埼玉県所沢市の狭山湖畔に開園した「所沢ユネスコ村」である。この中にはスイスの民家が1件あり、丸太造りの平屋のシャレーが展示されていた<sup>17</sup>。ユネスコ村は



図4 スイスの郷土様式で建てられたディズニーランド内のアトラクション「スカイライド」の乗車駅（当時の絵葉書より）

国内における野外民族博物館の先駆けで、戦後日本に誕生した初期のテーマパークともいえるもので<sup>18</sup>、日本がユネスコ UNESCO（国際連合教育科学文化機関）への加盟を記念して開村された<sup>19</sup>。しかし1990年には老朽化が進んだため一旦閉業され、村のシンボルであったオランダの風車も解体して全面的に改装し直すことになった<sup>20</sup>。そこで1993年に当時の恐竜ブームに乗って「ユネスコ村大恐竜探検館」として再開したが、野外民家園としての「所沢ユネスコ村」の性格はもはやなくなり、2006年には大恐竜探検館とともに完全にその幕を閉じた<sup>21</sup>。

今も営業が続く海外の民家を集めた野外建築博物館は、愛知県犬山市に開館した「人間博物館 リトルワールド」である。1978年に世界の民族をテーマにした屋内展示のみの博物館としてスタートしたが、1983年には第二の明治村を目指し、愛岐丘陵に日本（沖縄、鹿児島、山形）、アフリカ、ミクロネシア、タイ、韓国などの古民家を移築・収集する野外建築博物館に生まれ変わっ

17 西武ユネスコ協会編『ユネスコ村写真集 第2』西武ユネスコ協会、1956年、p. 10.

18 「所沢ユネスコ村」では、1970年の大阪万博のオーストラリア館やマレーシア館を移築して催事館としての再利用も行ってた。「パピリオン売りたい つくば万博協会が募集開始、1番人気はソ連館」『朝日新聞』1985年8月4日（朝刊）、p. 22.

19 奥野一生『新・日本のテーマパーク研究』竹林館、2008年、p. 77.

20 「西武鉄道、ユネスコ村を全面改造へ オランダ風車も取り壊し 所沢」『朝日新聞』1990年3月10日（朝刊埼玉1）

21 「大恐竜探検館、30日まで 閉館惜しみ混雑 = 埼玉」『読売新聞』2006年9月17日（東京朝刊埼玉2）、p. 26.

た<sup>22</sup>。1983年の開館時に発行されたリトルワールドのガイドブックによれば、ヨーロッパ・アルプス山地の民家はまだ移築されていないものの、博物館内での資料の収集展示は行っていることが記載されている<sup>23</sup>。1989年までに「人間博物館」という接頭名が改名され「野外民族博物館リトルワールド **The Little World Museum of Man**」となり、人間博物館時代は、ヨーロッパの民家はなかったが、野外民族博物館となつてからは、日本人がスイス風を意識してデザインするさいによく用いるハーフティンバー **half-timber** (木骨造、仏語ではコロンバージュ **colombage**) 建築のフランス・アルザス **Alsace** 地方の民家が移築された<sup>24</sup>。のち世界各国の民家も順次追加されているが、当初行っていた移築方式はコストや運搬の関係で行われなくなり、再現方式に変更された。今なおスイスの民家はないものの、開館10周年を記念した1993年には、南独バイエルン州ガルミッシュ・パルテンキルヘン **Garmisch-Partenkirchen** 周辺のスイスシャレーに近い民家が再現された<sup>25</sup>。

スイスの風景をモチーフにしたレジャー公園として誕生したのが、栃木県那須町にある「りんどう湖ファミリー牧場」である。もともとは1965年に「日本ビューホテル」の関連会社「那須興業」が開業させた、池でのボート遊びや子供向けのアスレチックなどができるアウトドア型の娯楽施設だった。それが1983年に牧場内でスイス民族音楽祭をはじめたのをきっかけに、1985年からは「那須高原の小さなスイス」を目指して10億円を投じ、スイス風の時計塔、スイス国旗を表現した花壇のある「スイス広場」、チーズフォンデュを供するレストラン「ラ・スイス」、スイスの民芸品や食料品の売店などをつくった。つまり「りんどう湖ファミリー牧場」は、日本でスイスをモチーフにしたテーマパークの最初期のものとなった。そのさい畜舎も増築してスイスの牛「ブラウンスイス」を迎え、マッターホルンの景観の縮小版をイメージした「ホルンの森」にはチューリヒを走るアプト式の登山電車「ドルダー鉄道 **Dolder Bahn**」のミニチュア版を走らせ、牧場のスイス化を強化させていった<sup>26</sup>。つまりスイスをモチーフにしたテーマパークにもなるように、バブル時代らしいコンセプトと投資が行われたのだ。2005年には、牧場「スイス化」20周年を記念して、TVアニメ「アルプスの少女ハイジ」をテーマに新設した山小屋風のカフェがで

22 「第二の明治村めざす—人間博物館・リトルワールド—愛岐丘陵に着工」『中部財界』1981年7月号, pp. 56-58.

23 人間博物館リトルワールド『人間博物館リトルワールド・ポケットガイドブック』人間博物館リトルワールド, 1983年の折込地図。

24 1983年開館時の予定では、敷地の東部に中東のキャラバンサライを建てるために確保していた場所に、1582年築のアルザス地方の農家が移築された。**Ibidem.**; 財団法人リトルワールド『野外民族博物館リトルワールド』名古屋鉄道株式会社, 発行年不明, pp. 38-39.

25 「ドイツ南部の村」再現 リトルワールドに93年3月完成【名古屋】『朝日新聞』1992年4月7日(朝刊東海総合面), p. 21.

26 「りんどう湖ファミリー牧場—スイスの情景・味演出(企業新戦略)」『日本経済新聞』1987年6月16日(地方経済面北関東), p. 4; 「那須で「スイス鉄道」運行。」『日本経済新聞』1987年8月7日(地方経済面神奈川), p. 26.

き、園内各所で「スイス人演奏家によるアルプホルンやアコーディオンの演奏、ヨーデルや旗振りの披露」も行われた<sup>27</sup>。その後一旦スイスのコンセプトを全面に打ち出すことは下火になっていったが、牧場は再び「那須高原の小さなスイス」だった原点に立ち戻り、2020～21年の夏まで「りんどう湖ハイジの丘」というスポットを特設し、TVアニメ「ハイジ」をテーマにするイベントを行った<sup>28</sup>。

日本でのスイス村が興隆してゆくのは1970年代後半以降<sup>29</sup>、つまりこのTVアニメーションシリーズ『アルプスの少女ハイジ』が1974年に放映されてからなので、明らかにアニメ化による視覚的宣伝効果の影響を無視することはできないだろう。

### 3-1. 1970年代にはじまった日本各地のスイス村計画

#### 3-1-1. 板取スイス村（岐阜県）

岐阜県駅から自動車でも45分ほどのところにある板取村（現・関市）は、冬は積雪地帯で、板取川に沿って南北に長く、北側は福井県に接している村である。その溪谷のあるスイスを思わせる自然景観から、公共の建物をスイス風にする村づくりが1970～90年代に行われた。板取村をスイス風にしようと思いついたのは、村長の長屋実（1927-1994）である。彼の任期がはじまったのは1971年からだが、70年代後半ぐらいからキャンプ場を中心に、「板取スイス村」の整備がはじまった。日本でのキャンプ場の先駆け的存在だった「テント村」が「スイス村」とネーミングを変え

---

27 「りんどう湖ファミリー牧場 ハイジの世界に触れる＝栃木」『読売新聞』2005年4月22日（東京朝刊栃木3）、p. 30.

28 「那須高原りんどう湖ファミリー牧場、『りんどう湖ハイジの丘』オープン」『観光経済新聞』2020年9月26日配信、<https://www.kankokeizai.com>（2021年4月6日閲覧）

29 小規模なものでは、化粧品会社メナードが1976年から運営している、三重県青山町（現・伊賀市）の室生赤目青山国定公園・青山高原に建てた保養施設「メナード青山リゾート」で、そこには現在も「スイス村」と呼ばれるコテージ群がある。1987年の新聞記事によれば、「メナード青山リゾート」内にはすでに、「鉄筋二階建てホテル一棟（客室数36、200人収容）、コテージ十棟（計20戸、同計80人）の宿泊設備」を備えているが、さらなる拡張計画で「一般利用者用の宿泊設備として、ホテル（鉄筋5階建て、200-250人収容）一棟や、スペイン、アメリカなどの建築様式を参考にしたコテージも約50棟（計100戸、400人収容）増築」する予定だったが実現せず、1996年からはアロマテラピーをコンセプトにした保養施設となり、2001年には温泉ホテル「メナードランド」も完成したが、現在施設内にある2件のホテル名は、「ホテルシャンベール」と「青山ホテル」である。メナード青山リゾートのオフィシャルサイト「コテージ『スイス村』」、<https://www.menard.co.jp/resort/sp/stay/cottage/cottage.html>（2021年4月7日閲覧）；「メナード化粧品、三重のレジャー施設拡充、西日本で最大規模。」『日本経済新聞』1987年10月20日（地方経済面中部）、p. 7；「メナードランド、三重県青山町の開発『長期滞在型』に変更。」『日経流通新聞』1992年3月10日、p. 5；「メナード化粧品がアロマテラピー施設（情報ファイル）【名古屋】」『朝日新聞』1996年2月21日（朝刊2経）、p. 13；「青山リゾートに新ホテルが完成 青山町／三重」『朝日新聞』2001年6月22日（朝刊 三重1）、p. 24.



図5 バスの停留所「板取スイス村」の待合所—90年代に付されたゾーン名「山の四季ガーデンゾーン・杉島」が併記されている（2021年1月筆者撮影）

たことに遡るもので、今でも板取村は川沿いにバンガローが並んだキャンプ場で有名だ。

今もバス停の名前としても残っている「板取スイス村」であるが、このバス停を含め板取のバス停の待合所はスイスの山小屋を意識したハーフティンバーのデザインになっている（図5）。バス停「板取スイス村」は杉島地区にあり、そのすぐ近くにある旅館「明神温泉湯元すぎ嶋」は<sup>30</sup>、良質な温泉と四季折々の郷土料理を供するリピーターの多い人気の料理旅館であるが<sup>31</sup>、板取村がスイス村をコンセプトにした村おこしをしていた当時の1979年、創業者の長屋勝彦氏は、旅館の建物もスイス風にしようと、兵庫県西宮市の建築家の今竹翠（みどり）氏に設計を依頼したが<sup>32</sup>、最終的にはスイス風にする決断に至らなかったという。

板取村で実現した主要なスイス風の建物のほとんどが今竹翠氏の設計によるもので、どれもハーフティンバーの山小屋風である。それぞれドイツ語で建物の用途名が建物に明記され、それもデ

30 「明神」は板取村杉島区の小字のひとつである。渡辺賢雄編『板取村史』板取村役場、1982年、p. 827。

31 創業は1968年、当時の屋号は「杉島荘」で、1995年に温泉を掘り、老朽化した初代の建物を解体したのち、母屋は新潟県十日市の古民家を移築して再生し、もともと板取村にあった明治時代の蔵を客室に転用した純和風の宿である。旅館「すぎ嶋」ならびに「板取スイス村」の情報は、「すぎ嶋」の創業者・長屋勝彦氏からの懇切丁寧な情報提供（2021年1月9日のヒアリング）による賜物であり、心より御礼を申し上げる。

32 今竹翠氏の父は、関西電力や南海ホークスのロゴに、メンソレータムや輪ゴムのオーバンドのパッケージデザインで有名なグラフィックデザイナーの今竹七郎（1905-2000）である。



図6 今竹翠設計の板取村（現・関市）の旧・中学校「Landschule」（2021年1月筆者撮影）

ザインの一部となっている。今は廃校となってしまった板取中学校（1993年築）には「Landschule」（図6）、体育館には「Turnhalle」、温泉施設には「Badehaus」と「Storm」と書かれていて、ゲートボール場は屋根だけの躯体であるがそれも調和のとれたスイス・シャレー的勾配の山小屋風となっている。ランドスケープデザイナーでもある今竹翠氏は、周囲の自然環境に調和するよう建物を設計することに細心の注意を払う建築家で、その解決策となったのが、日本の伝統民家の木骨造にも似ているスイスやチロルを意識したハーフティンバーであった<sup>33</sup>。

1987年、村長の長屋実氏は「板取スイス村」を元にしたさらなる村おこしとして、「自然と冒険スポーツ村」構想を打ち上げたが<sup>34</sup>、その2年後の1989年、板取村役場庁舎（現・関市板取事務所）の移転・新築（1987年完成）のさい、業者から賄賂を受け取った汚職で辞職に追い込まれてしまった<sup>35</sup>。後任村長の長屋勝司は、1994年、若者の流出と過疎化対策に取り組むため、「板取スイス村整備構想」を打ち出した<sup>36</sup>。2005年、板取村は関市に合併吸収されたが、「板取スイス村協会」が立ち上げられて今も存続し、先に挙げた今竹翠設計の主要な公共建築のほか、郵便局、

33 同じく今竹翠氏が設計した兵庫県但馬アルペンロード沿いにある但馬高原植物園「オーバーラントガルテン Oberland Garten」（1997年）のレストラン棟「ヒュッテ・ブルンネン Hütte Brunnen」も同系統のデザインとなっている。

34 「岐阜・板取村、冒険スポーツ村構想」『日経産業新聞』1987年9月11日、p. 5。

35 賄賂のほか村役場庁舎のコンペでも特定の建設会社に便宜を図っていた。「岐阜県警が板取村長を収賄で逮捕 役場建設めぐり便宜【名古屋】」『朝日新聞』1989年9月1日（朝刊）、p. 23；「庁舎建築工事で収賄、岐阜県板取村村長が辞職。」『日本経済新聞』1989年9月5日（名古屋朝刊）、p. 21。

警察署、浄水施設、飲食店、カヌーの小屋、コテージ村などで、スイス村を意識した山小屋風にデザインされている建物を随所にみることができる。

### 3-1-2. 弥栄町スイス村（現・京丹後森林公園スイス村）（京都府）

京都府北部にある丹後ちりめんの産地で知られる峰山の、JR 峰山駅から車で50分ほどのところにある、京都府弥栄（やさか）町（現・京丹后市）にできた「スイス村」も、主たる目的は板取村と同様に若者の流出や過疎化を食い止めるためだった。弥栄町は1955年に弥栄村と野間村が合併してできた町だが、1963年、山間地にある旧・野間村で災害レベルの豪雪に襲われたのを機に、弥栄町では農業への不安から過疎化に拍車がかかっていた。そこで1967年に弥栄町長に就任した森岡行直（1925-2006）が<sup>37</sup>、太鼓山（標高683m）をレジャーで発展させて人を集めようと考え、1978年、キャンプ場「森林公園スイス村（現・京丹後森林公園スイス村）」を誕生させた<sup>38</sup>。やはりTVアニメ『アルプスの少女ハイジ』の影響もあってか、森岡町長がスイス村のアイデアを思い付いたのは放映開始の1974年、スイスへ視察旅行に行ったときだった。

弥栄町の森林公園スイス村には、キャンプ場の横にバンガロー群があり<sup>39</sup>、半切妻屋根や片流れ屋根でシンプルながらもモダンにスイス風を意識したデザインとなっている（図7）。冬の積雪を利用して、1984年には「スイス村スキー場」も完成し、一時は日本を代表するスキー場のひとつにも数えられるほどだった。のちにスキー場前のエリアに整備されたコテージ群は、スイス風のデザインではないが、スイスの高級リゾート地名「サンモリッツ St. Moritz」や湖名「レマン Léman」、アルプスの名峰名（アイガー Eiger、ユングフラウ Jungfrau、マッターホルン Matterhorn、モンテローザ Monte Rosa）といった名前が付けられている<sup>40</sup>。なお町長の森岡行直は、シャーロック・ホームズの舞台となったライヒェンバッハの滝 Reichenbachfall で有名なスイスの村マイリンゲン Meiringen に3回訪れたのち、1992年にマイリンゲンと姉妹都市を結ぶことにも成功

36 村にスポーツゾーン、山の四季ガーデンゾーン（旅館「すぎ嶋」周辺）、環境と文化宿泊ゾーン（温泉施設「Badehaus」周辺）、文化・教育ゾーン（中学校「Landschule」周辺）、モータースポーツゾーン、木工体験クラフトゾーンなどといった全10個のテーマ別ゾーンを設け、レジャーと自然環境を生かした観光化への整備を進めた。「板取村（岐阜県）―“交流人口”増へ施設整備（わが街次の一手）」『日本経済新聞』1994年2月7日（名古屋夕刊、中部特集），p. 37.

37 森岡行直は任期満了の1995年まで7期連続で町長を務めた。

38 その立地はかつて野間村の住山集落があった場所で、2012年に記念碑「住山集落の跡」が建てられ、その碑文には、「この山岳に住山・熊谷・尾崎・平家・茶園・黒川の集落が在ったが、昭和三十八年の豪雪を機に、全十二戸が住み馴れた先祖伝来の地を惜別したいいつの日か、この地の繁栄を願い、断腸の想いで山を降りた跡を記す／集落の起源 慶安三年三月頃／野間地区区長会のご芳志により建之／平成二十四年四月吉日／発起人 藤原徳／尾崎信夫」と刻まれている。

39 松岡憲司『地域産業とイノベーション―京都府丹後地域の伝統・現状・展望』日本評論社，2007年，p. 61.

40 大自然で体験宿泊 森林公園スイス村「アウトドアを満喫：コテージ」、<http://swissmura-homepage.mints.ne.jp/swiss/stay-outdoor/cottage/>（2021年4月4日閲覧）



図7 かつて住山集落のあった跡地にできた弥栄町スイス村のキャンプ場にあるスイス風を意識したバンガロー群（2021年4月筆者撮影）

し、調印式は弥栄町で行われた<sup>41</sup>。そのため、コテージ群が並ぶ道（丹後貫通林道）の入り口には、姉妹都市であるマイリンゲンの名を付けた山小屋風のレストハウス「ヴィラ・マイリンゲン Villa Meiringen」（現在は廃墟）があり、その隣にもハーフティンバーで山小屋風の建物の高原浴場がある。

さらにスイス村のスキー場付近には2軒の宿泊施設「山の家」（解体予定）と「風のがっこう京都」（2002年開設<sup>42</sup>）もできたが、こちらは全く山小屋風でもスイス風のデザインでもない建物である。というのも「風のがっこう京都」は、自然エネルギーの先進国デンマークからエコロジー政策を学ぶ施設として誕生し、内部の吹き抜けホールにはデンマークの旗が掲げられ、同コンセプトからスイス村近くに「太鼓山風力発電所」も2001年に設けられていた。しかし風が強すぎる土地柄は、風車に負荷がかかりすぎて風力発電に不向きであったため、2020年に運転停止となった。さらに近年の暖冬による雪不足でスイス村のスキー場も、2019年より休止している<sup>43</sup>。とは

41 豊城邦民「森岡行直さん 京都府弥栄町長（やっています）【大阪】」『朝日新聞』1993年3月14日（朝刊），p. 15.

42 デンマーク在住の環境活動家ケンジ・ステファン・スズキ氏によって開設された。スズキ氏は、京都で地球温暖化会議が開催された年でもある1997年、デンマークで環境エネルギー政策を学ぶための研修施設「風のがっこう」を設立しており、弥栄町スイス村の「風のがっこう京都」は、その精神を受け継いだものである。

43 「スキー場、営業休止へ 雪不足など、再開めどたたず 京丹後・スイス村」『朝日新聞』2019年11月27日（朝刊京都・1地方），p. 33.

いえスイス村は、2021年4月から新たにスイス村の京都市指定管理者となった株式会社エーゲル（京都市）によって、現在大幅リニューアルと活性化プロジェクトが進行中で、大きな期待が寄せられている<sup>44</sup>。

### 3-2. バブル期（1980年代後半～90年代）におこった日本各地のスイス村計画

#### 3-2-1. 歌志内のスイスランド（北海道）

1987年に立ち上がった北海道歌志内市の「スイスランド構想」は、炭鉱で栄えた歌志内市が、炭鉱の閉山によって過疎化・衰退することを食い止める手段であった。そこで当時の市長の森永大（1925-1995）は、神威（かもい）岳（標高467.7m）をスイスアルプスに見立てて歌志内市のリゾート計画「スイスランド」を実現させた<sup>45</sup>。冬の積雪を利用したスキー場開発とともに進められた「新かもい岳総合観光開発構想」を中核とし、「かもい岳山麓にスイスの山あいの景観や情景をそっくり移植し、四季を通じて楽しみ、体験するレジャーゾーンを創り出そう」というものだった<sup>46</sup>。道道114号線を横切るサカイ沢川は、歌志内市と砂川市の境界線のある場所であるが、その歌志内市側には「ようこそスイスランドの町へ」と書かれた看板が、今もドライバーたちを迎えている。

「スイスランド」計画のキャッチフレーズは「かもい岳山麓にスイスの風が吹く」であったが<sup>47</sup>、じっさいはスイスだけではなくオーストリアのチロル地方の景観と建築も含めモデルにしたもので<sup>48</sup>、歌志内市内にはスイス風あるいはチロル風の公共建築が次々と建設された。1991年の朝日新聞の記事では、歌志内市の「スイスランド構想」はまだ検討中とあるが<sup>49</sup>、すでに1985年、かもい岳国際スキー場にはスイスの伝統民家のようなデザインの「センターハウス」が建てられていた（図8）<sup>50</sup>。これを皮切りに、スキー場を中心とする神威岳山麓はスイス風の建物が集まるようになる。ゲレンデの中腹にはチロル風の教会のような小規模な建物が2軒あり、センターハウス前にある宿泊施設「かもい岳温泉」（1996年）もチロルの教会の鐘楼のような塔屋の

---

44 「風のがっこう京都」はじめ弥栄町のスイス村については、「京丹後森林公園スイス村」支配人の森川哲己さんからの情報提供によるもので、峰山からスイス村関連エリアを懇切丁寧にご案内もしてくださった同氏への篤いご厚意をここに深く心より感謝申し上げます。

45 「歌志内市—新生めざす炭鉱の街、補助金頼みと一線画す（成長都市人と産業）」『日本経済新聞』1987年10月24日（地方経済面北海道）、p. 1.

46 歌志内市史編さん委員会編『歌志内市史』歌志内市、1994年、p. 1618.

47 Ibidem.

48 Ibidem.

49 「産炭地振興、各自治体が事業構想—再開発や観光が柱、跡地利用に産廃施設計画も。」『日本経済新聞』1991年8月22日（地方経済面北海道）、p. 1.

50 企画財政課企画広報グループ編『市勢要覧 うたしなない資料編（令和元年12月発行）』歌志内市、2019年、p. 5.



図8 スイスの伝統民家のような歌志内の「かもい岳国際スキー場」のセンターハウス（2021年3月筆者撮影）

ある建物だ。さらにキャンプ場「かもい岳ビレッジ」（1999年）のコテージの1棟は、スイスの地名「ツェルマット Zermatt」と命名されている。また1985年からは、バス停の待合所（図9）も公衆トイレ（図10）もスイス風のデザインで統一されるようになっていた<sup>51</sup>。

なお初期の計画書のなかでは、「スイスタウン」という言葉も使われていて、スイス風デザインの建物としてはホテルと牧場内の畜舎が想定され、観光資源とすべくカウベルの音が響く牛専用の「カウベルロード」や、スイスのイメージを象徴するような大花壇をつくる案もあった<sup>52</sup>。スイスランド計画を牽引した森永大市長の任期中に建設されたのは、他にも1991年に開館したスイスシャレー風の観光館「アルプハイム Alpheim」（現・株式会社ビー・エス・シーの社屋）があり<sup>53</sup>、外壁にはメルヘンチックな壁画も付いている（図11）。その背後の道道691号線沿いには、後年、チロル風を意識したデザインで中央に時計塔が付いた郷土博物館「郷土館ゆめつむぎ」（1997年）も建てられ、その一帯もスイス村のような雰囲気エリアとなった。

1992年、歌志内の後継の新市長、河原敬（1931-2011）が就任すると、スイス風のまちづくり

---

51 スイス風デザインの公衆トイレの最初のもは文殊地区にある「第3公衆便所」（1988年）である。歌志内市史編さん委員会編、前掲書、p. 1611.

52 上掲書、pp. 1620-1621.

53 道道114号線沿いのこの建物の目の前にある明円工業（株）の社屋もスイス風の建物になっていて、個人の建物でもスイス風にする場合は市から助成金の補助があった。



図9 歌志内の道道114号線沿いにある山小屋風の「神楽岡」バス停の待合所—背後にはスイスシャレーのようなデザインの集合住宅も見える（2021年3月筆者撮影）



図10 歌志内の道道691号線沿いの「郷土館ゆめつむぎ」の隣りにあるスイスシャレーのようなデザインの公衆トイレ（2021年3月筆者撮影）



図 11 歌志内の道道 114 号線沿いにあるスイスシャレーのようなデザインの旧・観光館「アルプハイム」（現在は個人の社屋）（2021 年 3 月筆者撮影）

はさらに躍進した。同年 12 月に、文珠（ぶんじゅ）地区の炭鉱の跡地から湧き出た温泉を利用した高齢者健康センター「チロルの湯」が、山小屋風ハーフティンバー調デザインの建物で開業し<sup>54</sup>、市内には次々とスイス風あるいはチロル風の建物が造られていった。現在「チロルの湯」は、高齢者向けに限定しない庶民的な宿泊施設兼日帰り温泉となっていて、内部に併設されている食堂「チロル Tirol」の内装のすりガラスには、登山電車が走るマッターホルンのある山岳風景を描いたレリーフが嵌められている。「チロルの湯」の左隣には鐘楼の付いたチロルの教会のような建物があり、シャレー風の体育館「アリーナチロル Arena Tirol」（1995 年）と内廊下で「チロルの湯」と接続している。さらの「アリーナチロル」の左隣にもシャレー風の建物 2 棟、「いきがいセンター・リンリン館」（1996 年、現在廃業し売出し中）と「老人ホーム楽生園」（1997 年）が続き、この通りにはスイス風のデザインの建物が勢揃いした。さらに「チロルの湯」の前面にある道道 114 号線沿いにも、シャレー風建築の「道の駅チロル」（1998 年）が開業し<sup>55</sup>、文珠地区ではスイス風の景観づくりがとくに進んだようで、文珠にある市立西小学校ではスイスの民族楽器アルプホルンの演奏をする部活動も行われている<sup>56</sup>。

54 1992 年にできたのは温泉棟で、メインの建物となる 3 階建ての宿泊棟の竣工・開業は 1993 年である。ただし客室が使用できるのは 2 階までで、奇妙なことに 3 階は飾りで、部内者にすらアクセスできる階段が内部に設けられていない。企画財政課企画広報グループ編、前掲書、p. 5.

55 開業は 1999 年 2 月。上掲書、p. 6.



図12 歌志内の東光地区の公営住宅「TH」（2021年3月筆者撮影）

歌志内では公営住宅でも、スイス風を意識したデザインを取り入れるようになり、道道114号線沿いを中心に、文殊の団地（1995-2000年）<sup>57</sup>、神楽岡の団地（1996年）、東光地区の団地（1998年）（図12）、歌神の団地（2002-4年）があるが、これらの公営住宅は、他のスイス風デザインの公共建築に比べると伝統建築を模倣するリアルさには欠け、自由にシンプル化したメルヘンチックなものとなっている。このような歌志内のスイスをモチーフにしたまちづくりは、近隣の市にも多大な影響を与えたが<sup>58</sup>、炭鉱閉山による過疎化対策で始まったにもかかわらず、歌志内は現在、国内で最も人口の少ない市となってしまった。

### 3-2-2. 田沢湖スイス村（秋田県）

スイスの景観を連想させる自然は山間だけではない。山に囲まれた湖畔の景色もスイスの名勝レマン湖 Lac Léman と結びつけられ、秋田県田沢湖の湖畔がジュネーブ Genève に擬えられると

56 安味伸一「朝夕さわやか スイスの民族楽器「アルプホルン」の音色―北海道・歌志内西小」『毎日新聞』2000年6月16日（北海道夕刊），p. 1.

57 文殊地区には道道114号線沿いに平行する南側の通りにもシャレー風の通称「チロル団地」（A、B、Cの3棟）があり、その右隣にある3棟の二世帯住宅もチロルの山小屋風のデザインの建物になっている。

58 西隣りの砂川市も歌志内の影響を受け、市内にはメルヘンチックな建物（消防署、砂川希望学院、北海道こどもの国、砂川遊水地など）が多く、北隣りの赤平市にある縫製会社「北海道大賀クロージング」が、日本人が思い描くスイス風の四角錐の赤屋根のある建物となっている。



図 13 田沢湖スイス村の当時のパンフレット（筆者蔵）

いうことから、1988年7月、今はなき日本初のハイジのテーマパーク「田沢湖スイス村」が開園した（図13）。計画は1985年に遡るものの、土地の取得はアニメ「ハイジ」の誕生と同年の1974年に行われていた。この10ヘクタールの土地（スイス村に使用したのはその3分の1程度）を取得したのは、運営会社となる東京のミナミ工業（ミナミユースランド、南学正夫社長）で<sup>59</sup>、同社は「田沢湖ミナミユースランドホテル」<sup>60</sup>と「田沢湖ミナミスキー場」も運営、1987年には高さ35メートルの巨大な観音像「田沢湖金色大観音」も建設し<sup>61</sup>、当時は田沢湖の主要な観光資源のひとつであった。

「田沢湖スイス村」の園内には、院内岳山麓の立地の勾配を利用したリフトカー「エーデルワイス Edelweiss 号」が敷設され、マイエンフェルトにあるハイジの家をイメージした「ハイジヒュッテ Heidi-Hütte」、ペーターズロッジ、クララの風車、ハイジシアターといったスイスの山村を模せるような建物が並んだ。ほかにも牧歌的な雰囲気を出すサイロ、牛、救助犬のセントバーナード、アルプホルンを吹いている民族衣装の自動人形、「スイスの村のミニチュア模型を展示するジオラマ館、チーズフォンデュを供するレストラン「アルム Alm」（のちに「ローゼ Rose）」や、田沢湖の陶芸づくりを体験できるスイスの教会のような建物の「クラフト館」があった。

59 同社は1991年に「田沢湖スイス村」のアトラクションを増やして拡張しようとしたが、県指定の「田沢湖抱返り県立自然公園」内の土地であることでの開発規制によって、その計画は進められなかった。「田沢湖スイス村—秋田県・田沢湖町、県の規制で拡張難航（テーマパーク街・人）」『日経産業新聞』1991年11月9日、p. 10.

60 のち「ホテル森の風 田沢湖」と改名、現「天然温泉 田沢湖レクリゾート」。

61 井田均「テーマパーク—期待と不安⑭ 田沢湖スイス村（秋田県田沢湖町）」『日経地域情報（135）』日経産業消費研究所、1991年11月4日、pp. 15-17.

田沢湖スイス村は「田沢湖抱返り県立自然公園」内の敷地に造られたため、建物の塗装には派手な色を使用しないよう、茶色や緑を中心に配色する配慮がなされた<sup>62</sup>。冬は積雪のため11月下旬から3月中旬まで休園していたが、夏場は田沢湖へ行く道が大渋滞するほどの盛況ぶりだった<sup>63</sup>。

しかしバブル崩壊後、もともと公共交通の本数が少なくアクセスが不便であることも相まって、田沢湖スイス村の入園者数は減少の一途を辿る。運営会社ミナミグループは、スイス村ほかスキー場、田沢湖金色大観音といったエリア内の観光施設をすべて手放し、1994年には東日本ハウス(現・日本ハウスHD)が、東京のリゾート開発会社アンホックスを通じ22億円で取得した<sup>64</sup>。その後、運営会社は何度も代わり苦境から脱すべく試みがなされたものの<sup>65</sup>、田沢湖スイス村は2003年に閉業し、園内の建物は2010年までに解体された<sup>66</sup>。現在スイス村の跡地は、当時の道路と広場や駐車場の名残りもあるが、周囲は草木が生い茂りほぼ自然林に戻っている。田沢湖スイス村にアクセスできる県道60号線沿いの最寄りの「上大沢」のバス停は今もあり、近隣にあるのは湖畔の道にたった1軒佇んでいる個人邸宅のみで、スイス村の雰囲気を意識したと思われる洋風ハーフトインバー調の建物だ。

田沢湖では近隣の宿泊施設などの建物のデザインもスイス風に合わせたのか、湖畔東側にある国民宿舎「田沢湖ロッジ」(現在閉業中)も、山小屋風ハーフトインバー調の建物となっている。バス停「蓬萊の松」近くの「湖畔の杜レストラン ORAE」もハーフトインバーの半切妻屋根のスイス風で、近隣の乳頭温泉にある「休暇村 乳頭温泉郷」の建物はシャレー風、秋田駒ヶ岳の温泉施設の建物も古民家風山小屋を思わせるデザインで、田沢湖畔はスイス村とともにスイスのイメージに寄せた環境づくりを行っていたのかもしれない。とはいえ、JR田沢湖駅から南方2kmほどに位置する歴史的建造物「草薙家住宅」(1831年)は茅葺屋根の木骨造であるので、地元の郷土建築自体が木骨造という共通項から、スイスの山小屋風ハーフトインバーのデザインとの調和が取りやすい土地柄も関係あったのだろう。

### 3-2-3. 安曇野スイス村ハイジの里(長野県)

次章「3-3」で後述するが、バブル末期に構想されたスイス村計画の幾つかは、バブル崩壊の

---

62 上掲書

63 上掲書

64 「田沢湖リゾート施設、取得金額は22億円。」『日本経済新聞』1994年10月15日(地方経済面 東北A), p. 2.

65 2000年は「東日本ライン」、2002年からは東京の「サーブ・リソーセズ」が運営していた。「あえぐ地方テーマパーク、地域振興の思惑揺らぐ―苦境の各施設、懸命の再建築。」『日本経済新聞』2000年8月28日, p. 30; 「東北のリゾート法承認地域、破綻・清算…苦境続く―自治体に重い負担。」『日経金融新聞』2002年10月24日, p. 10.

66 廃墟探索地図「田沢湖スイス村」、<https://haikyo.info/s/12711.html> (2021年4月5日閲覧)



図14 旧・豊科町（現・安曇野市）にある農産物直売所「安曇野スイス村」（2021年3月筆者撮影）

ため実現せずに頓挫したものも少なくない。しかし1989年に長野県豊科町（現・安曇野市）に開業した「安曇野スイス村」は、ドライブインとして地元の農産物直売所と飲食店の役割を担った施設であったため、現在も堅調に営業が続いている。今は「ハイジの里」という接尾語も付いた「安曇野スイス村ハイジの里」という名称だが、開業当時は「信州安曇野スイス村」という名だった。この接頭語「信州」は1991年にはなくなり「安曇野スイス村」となり、その時点ではまだ接尾語「ハイジの里」はなかった。

1989年の第一期オープンでは「ヨーロッパの山荘風建物で統一した農産物直売所、ガソリンスタンドなどの複合施設を設けたもので、レストラン事業ではサッポロライオンと提携」し<sup>67</sup>、教会の鐘楼のような塔屋のあるハーフティンバー調のスイスをイメージした建物から始まり（図14）、のちに複数の建物が追加されていった。

この「安曇野スイス村」は、最寄りのJR大糸線の柏矢町駅から徒歩で行くには遠く、首都圏からのドライブ客を見込んだものである。1988年に開通した長野自動車道豊科インター近くが立地に選ばれ、出資・運営にあたっている「あづみ農協」が、一般転用農地などの6.8ヘクタールの土地を活用したのだ。当時の新聞記事によれば、「背景に北アルプスを持つため、白を基調としたヨーロッパ調の観光施設群を整備する」予定だったが、のちに追加した多目的ホール「サンモリッツ」（1993年）はスイスのリゾート地の名を冠しているものの<sup>68</sup>、コンクリート打ちっばな

67 「安曇野スイス村開く、あづみ農協、年商10億見込む―農産物直売所やスタンド。」『日本経済新聞』1989年8月2日（地方経済面 長野），p. 3.



図15 2010年に「山小屋風に」改装されたJR大糸線の豊科駅舎（2021年3月筆者撮影）

しの外壁のあるモダンな建物でスイス風のデザインには見えない。もう1棟追加された「ハイジの里」と明記されているほうの農産物直売所は、赤い入母屋屋根で、伝統的なスイスシャレー風建築をモチーフにしたものではなく、漠然とした洋風山小屋調の建物だ。1997年にはワイン製造の「株式会社あづみアップル」がスイス村内に移転して<sup>69</sup>、教会の鐘楼のような塔屋の飾りの付いたスイス建築風のワイナリーを造り、スイス村らしい雰囲気作りに貢献した。

また「安曇野スイス村」が面している県道310号線には、信州の古民家風とシャレーが混ざったようなデザインの複合施設「あずみのコミュニケーション・チロル」（2014年開業）と、山岳写真家で蝶の研究家の田淵行男（1905-1989）の記念館（1990年開館）が山小屋風の建物で、「安曇野スイス村」と調和するかのようにならんでいる。さらに豊科の北側にある「安曇野市立豊科認定こども園」は2021年に、教会の鐘楼が付いたような赤い屋根のメルヘンチックなアルプス風を意識したデザインに改築した。さらにJR大糸線の豊科駅舎（図15）も2010年、JR信濃大町駅とともに、アルペンルートへの出発地として「山小屋風に」改装されている<sup>70</sup>。この豊科駅のファサードは、

68 「あづみ農協、6.8ヘクタールのスイス村建設—産直所兼ねたレストラン。」『日本経済新聞』1989年1月22日（地方経済面長野），p. 3.

69 スイス村ワイナリー「会社概要」<http://www.swissmurawinery.com/company/>（2021年4月5日閲覧）

70 「大糸線、観光で活性化狙う—魅力発信へ知恵集結を（信州レポート）」『日本経済新聞』2009年9月16日（地方経済面長野），p. 3.



図 16 2001年に「スイス風に」整備されたJR江原駅からみた東口駅前広場（2021年4月筆者撮影）

ハーフティンバー調のスイスにありそうなハイマートシュティール様式風になっていて、豊科は北アルプスの玄関口として、「安曇野スイス村」の有無にかかわらず、スイスのイメージと重ねやすい場所となっているからだろう。

なお、JRの駅舎でスイス風のデザインをコンセプトにしたものに、兵庫県のスキーリゾートの神鍋高原の玄関口であるJR江原駅（2001年）もあり、東口ファサードとその駅前の建物15棟をスイス風にデザインしたという<sup>71</sup>。とはいえ、そこに広がるのはハーフティンバー風のメルヘンチックな建物ばかりで、スイスのシャレー様式建築ではなく、あくまで日本独自に解釈されているスイス風である（図16）。むしろ神鍋高原側にある西口のファサードのほうが、現代のスイスにありそうなデザインで、映画007シリーズの舞台にもなったスイスのシルトホルン Schilthorn 展望台（Piz Gloria）の外観を彷彿とさせる多角形の塔屋が印象的である（図17）。

また、さきの安曇野のスイス村のように、地元の特産食品のイメージとスイスを重ね合わせたところには、愛媛県野村町（現・西予市野村町）の例がある。スイスは酪農のほか、戦前まで絹織物業が盛んであったことと、酪農で知られる野村町もかつては「伊予生糸」の蚕糸業で栄えていた共通点から、1994年には野村町でスイス村構想があった<sup>72</sup>。1996年に建てられた「絹織物

71 「神鍋高原、玄関口をスイス風に 日高町のJR江原駅前が一変／兵庫」『朝日新聞』2001年7月28日（朝刊兵庫1），p. 29.



図17 スイスのシルトホルン展望台を思わせる意匠のJR 江原駅の西口玄関（2021年4月筆者撮影）

館」はスイス風の意匠で、2000年に開業した農業公園「ほわいとファーム」の建物群もスイスの山村をイメージしてデザインされている<sup>73</sup>。さらに2001年、兵庫県神崎郡神河町にも農業公園「ヨーデルの森 Yodel Forest」が開業している。ヨーデル Jodel という名称はアルプス地方の民謡を想起させるものの、特段スイス風であることをアピールした施設ではない。とはいえ一応その名称からアルプス風を意識した建物もある。じっさいは農業公園といっても、食品より動植物の観賞がメインで、当初は神河町の第3セクターが管理していたが、2年目で来訪者数が半減するほど落ち込んでしまった。2008年に一旦閉園するも、翌2009年には民間の管理会社に運営を委ね、動植物を増やしたりリニューアルを行い好調な再生を果たした<sup>74</sup>。

72 鈴木幸一「スイス村構想をあたためるミルクとシルクの町—愛媛県・野村町」『土木学会誌』79(11), 1994年9月, pp. 37-39.

73 「ミルクの町」売り出そう！ 野村に農業公園 あす19日オープン = 愛媛『読売新聞』2000年7月18日（大阪朝刊愛媛2）, p. 29; 「搾りたて牛乳利用、スイス風レストラン開店 愛媛の農業公園／高知」『朝日新聞』2000年7月27日（朝刊高知2）, p. 26.

74 「ヨーデルの森、客倍増 動物とのふれあい好評 三セクから民間委託奏功／兵庫県」『朝日新聞』2012年3月6日（朝刊播磨・1地方）, p. 35; 「[まちの宝物] 神崎農村公園ヨーデルの森 体験観光地域が協力 = 兵庫」『読売新聞』2018年8月22日（大阪朝刊神明2）, p. 28.



図 18 北杜市（旧・明野村）にあるスイスの旗がひらめく山梨県立フラワーセンター「ハイジの村」（2021年2月筆者撮影）

#### 3-2-4. 山梨県立フラワーセンター「ハイジの村」（山梨県）

1998年、山梨県明野村（現・北杜市）に開業した「山梨県立フラワーセンター」は、10ヘクタールの土地に、「欧州内陸部の牧歌的な農村をイメージ」した建物を配し<sup>75</sup>、まるでテーマパークのようなフラワーセンターである（図18）。センター内のシンボリック建物である尖塔屋根のついた展望塔はスイスカチロル風のデザインにも見えるが、城壁で囲まれた中央ヨーロッパの町のようなハーフティンバー調の建物もある。さらにロマネスク風（建築様式として正しいロマネスク様式ではない）の教会を思わせる多目的ホールもあるが、全般的には中世ドイツの町の広場をイメージしているようだ。立地は、南アルプスをのぞむ茅ヶ岳山麓の緩やかな斜面を活用したもので、花々も高山植物が植えられた。しかし、公共交通でのアクセスは極めて不便で、知名度も上がらぬまま経営は低迷した。県は指定管理者制度によって、外部の民間企業へ運営を委託できるようにし、名乗りを上げたのが山梨の銘菓「信玄餅」で有名な菓子製造の「桔梗屋」だった<sup>76</sup>。こうして「山梨県立フラワーセンター」は「花と幸せのテーマビレッジ・ハイジの村」と命名され<sup>77</sup>、2006年にTVアニメ『アルプスの少女ハイジ』のテーマパークも兼ねたフラワーセンターとして再生した。園内はスイスの国旗やカウベルで飾られ、チーズフォンデュのレストラン

75 「四季の花を楽しんで、山梨県立フラワーセンター、6日開業一花き生産振興拠点に。」『日本経済新聞』1998年8月1日（地方経済面山梨）、p. 25.

76 そのため園内では、信玄餅の販売も大々的に行われている。

ン、ロッテンマイヤーズ・カフェ、ハイジのデルフリ Dörfli 村のジオラマ、ハイジの歴史をたどる資料館、ハイジのグッズショップ、ヤギやセントバーナード犬の飼育エリア、そしてハイジの「アルムの山小屋」もセンター内に再現された。さらに2014年には、「ハイジの村」の前にある現代建築の温泉施設（旧・明野ふるさと太陽館）をホテル「クララ館」に改装し、内部は「ハイジ」の登場人物ゼーゼマン氏の屋敷をイメージしたアンティーク風の家具や、「立った」クララの等身大人形、「ハイジ」に出てくる動物たちの巨大なぬいぐるみが置かれている<sup>78</sup>。

### 3-3. 実現しなかったスイス村計画

バブル期後期には数々のスイス村計画が起こったが、バブル崩壊に直面して実現できなかったものも多く、この章ではそれらを時系列順に辿ってみる。

まず1988年、長野県諏訪市の霧ヶ峰高原で、ゴルフ場付きのスイス村計画があったが、1996年ごろに断念されている。すでに1990年に、ゴルフ場建設は自然破壊に繋がる行為であると地元民に反対陳情されているが<sup>79</sup>、1991年の新聞記事には、「諏訪市では約300ヘクタールを開発、ゴルフ場、スキー場、コンドミニウムを核にスイス村を併設する。コンドミニウムは2100戸を予定」という不動産販売会社エムデアイ（MDI）による計画概要が報じられていた<sup>80</sup>。諏訪地域は清涼な山岳景観と精密機械産業の発展によって、当時は「東洋のスイス」と呼ばれていたため、このスイス村の計画も「東洋のスイス村」とも呼ばれていたようだが、現在はその場所にメガソーラー（大規模太陽光発電施設）を置く計画が進められている<sup>81</sup>。

バブル期には九州・佐賀県神埼町（現・神埼市）にもスイス村計画があった。1989年、神埼町と三田川町（現・吉野ヶ里町）に属する吉野ヶ里遺跡から、2～3キロメートル北側にある約100ヘクタールの脊振山山麓の敷地に<sup>82</sup>、投資額200億円級の大規模な「スイス村」の建設が第三セクターで予定されたのだ。「長崎オランダ村」のスイス版にすべく、スイスの村の風景を精巧に再現するため、スイスから民家やホテルを移築するというものだった。JR長崎線上に新たな最寄り

---

77 「山梨県フラワーセンター来春魅せませす一花とヤギ『ハイジの村』に」『日本経済新聞』2005年12月23日（地方経済面山梨），p. 25.

78 花と幸せのテーマビレッジ・ハイジの村・山梨県立フラワーセンターのオフィシャルサイトのトップページ、<http://www.haiji-no-mura.com/>（2021年4月6日閲覧）

79 「信州鳴動 G・G 合戦 ゴルフ場 VS 緑の保護（記写縦横）」『朝日新聞』1990年3月9日（朝刊3社），p. 29.

80 「大規模リゾート、国内3カ所で開発へ—MDI、長期計画で取り組む。」『日経産業新聞』1991年2月18日，p. 23.

81 「（そこが聞きたい）高齢化・経営難『山を売るしか』霧ヶ峰メガソーラー計画、地権者らに聞く」『朝日新聞』2020年2月25日（朝刊長野全県・1地方），p. 17.

82 おそらく1993年に開業した町営キャンプ場「トム・ソーヤーの森」がある辺りと思われる。

駅「吉野ヶ里駅」を設け、この駅から吉野ヶ里遺跡のなかを通過して「スイス村」まで登山鉄道を敷くことも計画に含まれていた<sup>83</sup>。しかし1989年に、1986年より発掘が開始されていた吉野ヶ里遺跡で、邪馬台国の発見に関わるとされる住居群「環濠（かんごう）集落」が発見され、日本全国に吉野ヶ里遺跡の名が轟くこととなった<sup>84</sup>。よって、このような極めて重要な遺跡のなかを、レジャー施設の登山電車が貫通することなど許されるはずもなく、バブル崩壊とともにこの佐賀の「スイス村」計画は立ち消えとなり、1991年、吉野ヶ里遺跡は国の特別史跡に指定され、2001年より「吉野ヶ里歴史公園」として一般公開されている。しかし今でも吉野ヶ里遺跡公園の北側にある県道31線沿いには、スイス村計画の名残りと思われる洋風山小屋風の建物（-halfティンバーの外観を呈する社屋「(株)三好木工」と、1996年築の交番「東脊振派出所」）が残っているのだ。

同じく1989年、吉野ヶ里遺跡のスイス村と比べるとはるかに小規模ではあるが、北海道の八雲町で、JRの駅前にある約500メートルの本町通り商店街を、スイスの山小屋風にする計画が1992年にあった。商店街といっても、量販店や各種店舗を取り揃えたショッピングセンターに、ホテル、図書館、体育館まで備えた複合施設で、北海道の新たな拠点都市を目指した工費91億円相当のかなり意欲的なもので<sup>85</sup>、駅を橋上に建て、電線は地下化する予定だった。発案は八雲商工会によるもので、建物のデザインをスイスの山小屋風にする理由は、「八雲町が北海道の酪農の発祥地で古いサイロなどが点在している」ためだったが<sup>86</sup>、八雲町は、北海道土産で有名な熊の木彫り工芸の発祥の地でもあり、この熊の木彫りは、徳川義親（1886-1976）が、1921年にスイス旅行をしたさい現地で観光土産の熊の木彫を見て、自身が開拓していた八雲村の農閑期の手仕事としてアイヌに勧めたことに遡るといってもスイスと繋がりがある町である。

1991年、宮城県蔵王町の蔵王国定公園内の遠刈田温泉では、リゾート施設「スイス村」を建設する計画が進められていた<sup>87</sup>。蔵王高原の自然景観をアルプスに重ね合わせたもので、名称はフランス語で「ヴィラージュ・スイス Village Suisse」とした。投資額は約200億円で約10万3千

---

83 「『吉野ヶ里』にスイス村、遺跡近くに佐賀・神埼町構想一大規模レジャー施設。」『日経産業新聞』1989年5月17日（西部朝刊 社会面），p. 17；「佐賀に『スイス村』—吉野ヶ里と一体運営。」『日経産業新聞』1989年5月18日，p. 14.

84 「倭の1つのクニの中心部か 佐賀・吉野ヶ里の大規模集落跡：二重の濠、物見やぐら 25ヘクタールに300戸の住居確認」『朝日新聞』1989年2月23日（朝刊1紙），p. 1.

85 当時の新聞記事によれば、「目玉は駅前ビルと町並み。八雲駅は橋上駅としその前面に駅ビルと広場をつくる。ビルにはホテル、旅行センター、バス待合室などが入り、両側にショッピングセンターを配置する／ショッピングセンターは2階建て（一部3階）で屋上は28台収容の駐車場。量販店、専門店のほかスポーツセンター、図書館などを備えた複合施設とする。」というものだった。「スイスの山小屋風商店街めざす、道・八雲町北部渡島の拠点へ—駅前には複合ビル。」『日本経済新聞』1989年6月25日（地方経済面北海道），p. 1.

86 「北海道渡島八雲町商店街、近代化へ統一構想—スイスの山小屋風。」『日経流通新聞』1989年7月20日，p. 15.

平方メートルの敷地に、ホテル、娯楽施設、温泉施設を1993年9月に完成させる予定であった。中核となるホテルは、スイスの仏語圏の都市名からとった「ホテル・グラン・ローザンヌ Hotel Grand Lausanne」という名で<sup>88</sup>、溪流釣りのできる場所には、木造2階建てのコテージも5棟（1棟あたり4室）も備え、娯楽施設の名もフランス語名で「シャトー・ルミエ（ママ：リュミエール？）Château (Lumière?)」とした<sup>89</sup>。温泉施設は、おそらく立地が遠刈田温泉の和風のイメージを大切にしたいのか、日本語のまま「温泉館」という名称の平屋建てで計画されていた。しかしその内容はスイス抜きが多国籍的なもので、ドイツ、イタリア、フランス、中国（薬湯）、日本（檜風呂）など世界の温泉方式を一堂に集める予定だった<sup>90</sup>。伝統こけしの生産で有名な日本の工芸文化豊かな遠刈田温泉で行うには、あまり似つかわしい案ではないが、海外かぶれが横行していたバブル期特有の感性で計画されたのだろう。この蔵王町のスイス村計画と足並みを揃えて開業したのか不明だが、遠刈田温泉近くの県道12号線（白石上山線）沿いには、スイスの伝統的農家建築を精巧に模した「アサヒビール園」の建物があり、現在廃墟となって放置されている（図19）。

一方山陰では1991年、京阪電気鉄道（以下、京阪または京阪電鉄と略）によって、鳥取県の大山（標高1729m）山麓を開発する「大山スイス村」リゾート計画が打ち出された。冬は積雪量の多い大山の山岳景観と白バラ牛乳で知られる酪農に、スイスの特徴との類似性をみて発想された。大山スイス村計画は、鳥取県が進めていた「ふるさと大山ふれあいリゾート構想」の一環で、大山は関西の財界人や富裕層の別荘地でもあり、京阪電気鉄道が大山に所有している約100ヘクタールとも280ヘクタールともいわれる土地に、ゴルフ場、ホテル、キャンプ場などを整備し、2005年をめどに完成させていくというものだった<sup>91</sup>。しかし完成できたのは「大山レークホテル」のみである。この「大山レークホテル」は、もともとあった1973年築の京阪電鉄所有の和風の保養所を解体し、大野池のほもりという立地をスイスの湖畔に見立てて、スイス風の建物デザインにして15億円かけ増改築して一新させ、1997年にオープンさせたものである<sup>92</sup>。ロビー、ラウン

87 現在宿泊施設「ゆと森倶楽部」の建つ敷地西方と澄川までの広大な森がその敷地にあたる。請け負った仙台の建設会社「桂設計（旧・桂建物）」に電話で調査をしたところ、建築図面は保管していないが、計画予定地は「遠刈田温泉字上の原」だったという回答を得た。丁寧にご対応くださった佐藤まゆみさんには、ここに心より御礼申し上げます。

88 このホテルは「地下二階、地上四階建て、延べ床面積約31000平方メートル、客室は157室。事業費は約150億円」で計画されていた。「桂建物、蔵王にリゾート基地—157室のホテル核に。」『日本経済新聞』1991年3月19日（地方経済面東北B）、p. 24。

89 多目的ホール、エステ、薬膳レストランといった美と健康をコンセプトにし、地下一階、地上五階で、延べ床面積5500平方メートルで計画されていた。「桂建物、蔵王にリゾート基地—ホテルなど投資額200億円。」『日経産業新聞』1991年3月19日、p. 25。

90 「桂建物、世界の温泉を結集—蔵王のリゾート内に。」『日経産業新聞』1991年5月17日、p. 18。

91 「京阪電鉄がリゾート開発『大山スイス村』推進へ準備室を新設」『読売新聞』1994年7月2日（大阪朝刊B経）、p. 8。



図 19 スイスの伝統的な民家のようなデザインの「アサヒビール園」（県道 12 号線沿い）の廃墟（2021 年 2 月筆者撮影）

ジ、レストラン、チャペル、温泉浴場のある 4 階建ての公共棟に、3 階建ての客室棟（洋室 46 室、和室 1 室）が続く建物で、教会の鐘楼のような塔屋も付いている。冬場のスキー客用にスキー乾燥室を備え、グリーンシーズン用に四面のテニスコートを併設した<sup>93</sup>。しかしスイス村計画の中核となる 156 ヘクタールを占めるゴルフ場予定地が、大山町と淀江町（現・米子市）に広がる弥生時代の集落のある妻木晩田遺跡と重なっていることが分かり、地元住民や考古学者たちによってゴルフ場反対・遺跡保存運動が起こった<sup>94</sup>。開発を担う京阪電気鉄道と県の教育委員会は、保存は難しいとして、墳丘墓の一部を移築することで合意した。しかし文化庁（当時の文化庁長官は林田英樹）が反旗を翻し、県に対して移築ではない現地保存を要請し、国の史跡指定をする方向へと動き出した<sup>95</sup>。妻木晩田遺跡は、1998 年の時点で 720 軒を超える弥生時代の住居跡に、山陰特有の四隅突出墓が 19 基も確認されていて、国内最大級の貴重な弥生遺跡だったのだ<sup>96</sup>。1999

92 「京阪電鉄、鳥取・大山町のホテル全面改築。」『日経産業新聞』1996 年 4 月 3 日， p. 17.

93 「京阪グループ、鳥取・大山の中腹、スイス風ホテル 7 月にオープン。」『日経産業新聞』1997 年 1 月 29 日

94 「洞ノ原遺跡の保存など要望 大山町教育長に開発反対住民ら」『朝日新聞』1997 年 8 月 20 日（朝刊鳥取）；「知事に全面保存要請 県は移築保存を説明 妻木晩田遺跡群」『朝日新聞』1998 年 1 月 9 日（朝刊鳥取）

95 「弥生最大級の高地性集落 妻木晩田遺跡群 ゴルフ場か現地保存か—鳥取」『毎日新聞』1998 年 4 月 23 日（朝刊大阪）， p. 2.



図20 山小屋風デザインの大山ナショナルパークセンターの建物（2021年1月筆者撮影）

年にはまだ県も京阪電鉄も遺跡とゴルフ場を「共存」させる方針で、ゴルフコースの修正案を練り直していたが、最終的には県も京阪も「保存」で合意することとなった<sup>97</sup>。そして2001年には、京阪はスイス村開発用の米子の事務所を閉鎖し、ゴルフ場建設は取りやめて大山スイス村計画を「中断する」と発表したものの、まだ「完全撤退」は断念していないとも表明した<sup>98</sup>。

その後スイス村の進展はなく、地元民からも忘れ去られていったが、大山にはスイス村計画に影響を受けたかのような、スイス風を意識したと思われる山小屋風の公共の建物がいくつかできた。とはいえ、大山スイス村計画が発表される以前にも、大山隠岐国立公園のイメージをアルプスに重ねた山小屋風の建物はあった。たとえばJR西日本は、1937年に建った大山の「山の家」を解体し新築して、ハーフティンバーの山小屋風デザインの新たな山の家「シーハイル Schi Heil」（独語でスキー万歳の意）を1989年に建てている<sup>99</sup>。同年に開業した県営大山放牧場のレストラ

96 「オピニオン—地域・論争・対話 言—妻木晩田遺跡群 佐古和枝さん みんなで支援を」『毎日新聞』1998年7月4日（朝刊大阪文化），p. 4.

97 「妻木晩田遺跡群をめぐる動き」『毎日新聞』1999年4月10日（朝刊大阪），p. 25.

98 「京阪が『一時中断』、米子の事務所も閉鎖へ 大山スイス村」『朝日新聞』2001年3月15日（朝刊鳥取1），p. 31；田中成之「京阪電鉄の大山スイス村構想 整備を一時中断」『毎日新聞』2001年3月27日（鳥根地方版），p. 26.

99 「JR西日本、大山『山の家』改築。」『日経産業新聞』1989年8月23日，p. 6；「ちょっとシック、名所ができた、山の家—鳥取・大山中腹に『シーハイル』。」『日本経済新聞』1989年12月16日（地方経済面中国B），p. 35.

ンと乳製品のショップ「大山まきばみるくの里」(1998年)もハーフティンバー調のチロルかスイスをイメージした建物である<sup>100</sup>。とくにスキー場近くの建物は、大山ナショナルパークセンター(2003年)(図20)、鳥取県立大山自然歴史館(2005年、1976年開館の大山自然科学館を改築)、アウトドア用品の「モンベル montbell」の大山店(2008年)などシャレー風の建物が多い。大山スイス村計画のなか唯一実現したスイス風建築の「大山レークホテル」は、後年その運営は京阪の手を離れ、2010年からは大阪のマッサージチェア製造のファミリーイナダ株式会社が行うようになり、内部の一部が改装された。5年前にかつて本館にあった大浴場を閉鎖して、山小屋風ハーフティンバー調の別棟を増築し、客室二間を一部屋にして全36室に減らし、現代のスイスのモダンな高級ホテルにあるようなデザインのスイートルームを増やすなどの工夫がなされ今に至っている。

#### 4. おわりに

以上、日本各地に派生したスイス村計画をまとめたところ(表「日本各地で計画された主なスイス村」を参照)、やはりTVアニメ『アルプスの少女ハイジ』の放映後に主要な事例が起こり、バブル期の1980年代後半に急増していることがわかる。そしてその後衰退してゆき、今では忘れ去られたものも多い。しかし近年韓国では、京畿道(キョンギド)の加平(カピョン)に、スイスの伝統的な村をイメージした「エーデルワイス・スイステーマパーク」、済州(チェジュ)島ではスイス建築風ではないカラフルな建物群のある街区「朝天(チョチョン)スイス村」ができ観光地として賑わっているが、どちらもスイス風建築の精巧さとはかけ離れ、明らかに「インスタ映え」を狙ったカラフルな色調を強調したデザイン設計となっていて、かつて日本で興隆したスイス村とは性格を異にしている。しかし日本ではバブル遺産ともいえる伊ヴェネツィアを模した東京の自由が丘にあるショッピング区「ラ・ヴィータ」が、SNSの影響で2010年代後半から東南アジアの観光客の心を掴み、南欧の町並みを再現した和歌山の「ポルト・ヨーロッパ」も若い日本人女性に人気復活したことなどから、日本各地のスイス村がSNSによって再び脚光を浴びる可能性がないとも限らないが、今のところその兆しは見られていないようだ。というのもスイス村は山岳エリアに多く、その立地がいずれも公共交通でのアクセスが非常に不便であることが多く、ハイジ頼みでなしに、スイス村の観光振興を復活させるにはまだまだ多くの課題が残されているのが現状である。

---

100 「新観光施設『みるくの里』完成、畜産物販売やレストラン—大山の牧場で一休み。』『日本経済新聞』1998年4月29日(地方経済面中国B), p. 35.

表 日本で計画された主なスイス村 (出所: 著者による作成)

計画年	名称	場所	タイプ	備考
1965 (1985)	りんどう湖ファミリー牧場	栃木県那須町	牧場、屋外娯楽施設、テーマパーク	1985年より「那須高原の小さなスイス」化を目指した
1970年代後半	板取スイス村	岐阜県板取村(現・関市)	まちづくり・ランドスケープデザイン	1990年代までスイス風の公共建築の建設は続いた
1978	弥栄町スイス村	京都府京弥栄町(現・京丹後市)	キャンプ場、スキー場、宿泊施設	森林公園スイス村(現・京丹後森林公園スイス村)から始まった
1987	スイスランド	北海道歌志内市	まちづくり・ランドスケープデザイン	計画当初はスイスタウンという表現も
1988	田沢湖スイス村	秋田県仙北郡田沢湖町	『アルプスの少女ハイジ』のテーマパーク	2003年閉園、2010年解体
1988	(東洋の)スイス村	長野県諏訪市霧ヶ峰高原	ゴルフ場とホテル	実現せず
1989	安曇野スイス村ハイジの里	長野県豊科町(現・安曇野市)	JA農産物直売所・レストラン	当初「信州」の接頭語あり、後年「ハイジの里」の名称追加
1989	スイス村	佐賀県神埼町(現・神埼市)	レジャー施設・テーマパーク	バブル崩壊と吉野ヶ里遺跡の発掘によって中止
1989	名称未定のスイスの山小屋風商店街	北海道八雲町	商店街、ホテル、複合施設	実現せず
1989	ヴィラージュ・スイス	宮城県蔵王町遠刈田温泉	温泉リゾート施設、ホテルグランローザンヌなど	実現せず
1991	大山スイス村	鳥取県大山町	ホテル、ゴルフ場、キャンプ場など	妻木晩田遺跡の発掘によって中止、ホテルのみ建設
1998 (2006)	山梨県立フラワーセンター・ハイジの村	山梨県明野村(現・北杜市)	県立フラワーセンター兼テーマパーク	2006年より「ハイジの村」としてリニューアル

## 謝辞

本研究は、2020年度跡見学園後援会助成金による特別研究助成を受けて実施された研究発表の一部である。ここに記して心より謝意を表します。

## 参考文献

- A. GUIDINI, *Esposizione Internazionale di Milano del 1906*, in «L'Edilizia moderna», 1907.  
*Die Bemalung des Schweizer Pavillon auf der Internationalen Hygiene-Ausstellung in Dresden 1911*, in «Schweizer Bauzeitung», voll. 57-58, 26, August, 1911.
- E. KAWAMURA, *Tipi e vicende degli chalet e villaggi svizzeri "fuori dalla Svizzera" fra Ottocento e Novecento*, in *La Città Altra*, Federico II University Press, Napoli, 2018, pp. 323-330.
- F. SALVISBERG, *Wiener Weltausstellung 1873. Schweiz. Bericht über Gruppe VIII. Holz-Industrie*,

## 日本各地で派生した「スイス村」計画の変遷と現状

Schaffhausen, C. Baader, 1874.

*Grand Album de l'Exposition Universelle 1867*, Paris, M.L. Frères, 1868, XII, p. 45.

J. LAMBERT, *Pennsylvania at the Jamestown Exposition 1907*, Philadelphia, Pennsylvania Commission, 1908.

J. MAYOR et al., *Le Village Suisse à l'exposition Nationale Suisse*. Genève, s.l., s.n. 1896.

*Official Guide Book of the World's Fair of 1934*, Chicago, A Century of Progress International Exposition, 1934.

*Official Guide to the Louisiana Purchase Exposition*, St. Louis, The Official Guide Co., 1904.

*Paris Exposition 1900: guide pratique du visiteur de Paris et de l'exposition*, Paris, Hachette, 1900.

井田均「テーマパーク—期待と不安<sup>⑭</sup> 田沢湖スイス村（秋田県田沢湖町）」『日経地域情報（135）』日経産業消費研究所，1991年11月4日、pp. 15-17.

歌志内市史編さん委員会編『歌志内市史』歌志内市，1994年

奥野一生『新・日本のテーマパーク研究』竹林館，2008年

企画財政課企画広報グループ編『市勢要覧 うたしない資料編（令和元年12月発行）』歌志内市，2019年  
財団法人リトルワールド『野外民族博物館リトルワールド』名古屋鉄道株式会社，発行年不明

鈴木幸一「スイス村構想をあたためるミルクとシルクの町—愛媛県・野村町」『土木学会誌』79（11），  
1994年9月，pp. 37-39.

西武ユネスコ協会編『ユネスコ村写真集 第2』西武ユネスコ協会，1956年

ちばかおり『ハイジが生まれた日—テレビアニメの金字塔を築いた人々』岩波書店，2017年

人間博物館リトルワールド『人間博物館リトルワールド・ポケットガイドブック』人間博物館リトルワールド，1983年

松岡憲司『地域産業とイノベーション—京都府丹後地域の伝統・現状・展望』日本評論社，2007年

渡辺賢雄編『板取村史』板取村役場，1982年

「第二の明治村めざす—人間博物館・リトルワールド—愛岐丘陵に着工」『中部財界』1981年7月号，pp. 56-58.

### 〈新聞記事〉

「バビロン売りたいし つくば万博協会が募集開始、1番人気はソ連館」『朝日新聞』1985年8月4日（朝刊），p. 22.

「りんどう湖ファミリー牧場—スイスの情景・味演出（企業新戦略）」『日本経済新聞』1987年6月16日（地方経済面北関東），p. 4

「那須で「スイス鉄道」運行。」『日本経済新聞』1987年8月7日（地方経済面神奈川），p. 26.

「岐阜・板取村、冒険スポーツ村構想」『日経産業新聞』1987年9月11日，p. 5.

「メナード化粧品、三重のレジャー施設拡充、西日本で最大規模。」『日本経済新聞』1987年10月20日

(地方経済面中部), p. 7.

「歌志内市—新生めざす炭鉱の街、補助金頼みと一線画す(成長都市人と産業)」『日本経済新聞』1987年10月24日(地方経済面北海道), p. 1.

「あづみ農協、6.8ヘクタールのスイス村建設—産直所兼ねたレストラン。」『日本経済新聞』1989年1月22日(地方経済面長野), p. 3.

「倭の1つのクニの中心部か 佐賀・吉野ヶ里の大規模集落跡:二重の濠、物見やぐら 25ヘクタールに300戸の住居確認」『朝日新聞』1989年2月23日(朝刊1総), p. 1.

「『吉野ヶ里』にスイス村、遺跡近くに佐賀・神埼町構想—大規模レジャー施設。」『日経産業新聞』1989年5月17日(西部朝刊 社会面), p. 17.

「佐賀に『スイス村』—吉野ヶ里と一体運営。」『日経産業新聞』1989年5月18日, p. 14.

「スイスの山小屋風商店街めざす、道・八曇町北部渡島の拠点へ—駅前には複合ビル。」『日本経済新聞』1989年6月25日(地方経済面北海道), p. 1.

「北海道渡島八曇町商店街、近代化へ統一構想—スイスの山小屋風。」『日経流通新聞』1989年7月20日, p. 15.

「安曇野スイス村開く、あづみ農協、年商10億見込む—農産物直売所やスタンド。」『日本経済新聞』1989年8月2日(地方経済面 長野), p. 3.

「JR西日本、大山『山の家』改築。」『日経産業新聞』1989年8月23日, p. 6.

「岐阜県警が板取村長を収賄で逮捕 役場建設めぐり便宜【名古屋】」『朝日新聞』1989年9月1日(朝刊), p. 23.

「庁舎建築工事で収賄、岐阜県板取村村長が辞職。」『日本経済新聞』1989年9月5日(名古屋朝刊), p. 21.

「ちょっとシック、名所ができた、山の家—鳥取・大山中腹に『シーハイル』。」『日本経済新聞』1989年12月16日(地方経済面中国B), p. 35.

「信州鳴動G・G合戦 ゴルフ場VS緑の保護(記写縦横)」『朝日新聞』1990年3月9日(朝刊3社), p. 29.

「西武鉄道、ユネスコ村を全面改造へ—オランダ風車も取り壊し 所沢」『朝日新聞』1990年3月10日(朝刊 埼玉1)

「大規模リゾート、国内3カ所で開発へ—MDI、長期計画で取り組む。」『日経産業新聞』1991年2月18日, p. 23.

「桂建物、蔵王にリゾート基地—157室のホテル核に。」『日本経済新聞』1991年3月19日(地方経済面東北B), p. 24.

「桂建物、蔵王にリゾート基地—ホテルなど投資額200億円。」『日経産業新聞』1991年3月19日, p. 25.

「桂建物、世界の温泉を結集—蔵王のリゾート内に。」『日経産業新聞』1991年5月17日, p. 18.

「産炭地振興、各自治体が事業構想—再開発や観光が柱、跡地利用に産廃施設計画も。」『日本経済新聞』1991年8月22日(地方経済面北海道), p. 1.

## 日本各地で派生した「スイス村」計画の変遷と現状

- 「田沢湖スイス村—秋田県・田沢湖町、県の規制で拡張難航（テーマパーク街・人）」『日経産業新聞』1991年11月9日, p. 10.
- 「メナードランド、三重県青山町の開発『長期滞在型』に変更。」『日経流通新聞』1992年3月10日, p. 5;  
「ドイツ南部の村」再現 リトルワールドに93年3月完成【名古屋】『朝日新聞』1992年4月7日  
(朝刊東海総合面), p. 21.
- 豊城邦民「森岡行直さん 京都府弥栄町長（やってます）【大阪】」『朝日新聞』1993年3月14日(朝刊),  
p. 15.
- 「板取村(岐阜県)—“交流人口”増へ施設整備(わが街次の一手)」『日本経済新聞』1994年2月7日(名  
古屋夕刊、中部特集), p. 37.
- 「京阪電鉄がリゾート開発『大山スイス村』推進へ準備室を新設」『読売新聞』1994年7月2日(大阪朝  
刊B経), p. 8.
- 「田沢湖リゾート施設、取得金額は22億円。」『日本経済新聞』1994年10月15日(地方経済面 東北A),  
p. 2.
- 「メナード化粧品がアロマテラピー施設(情報ファイル)【名古屋】」『朝日新聞』1996年2月21日(朝刊  
2経), p. 13.
- 「京阪電鉄、鳥取・大山町のホテル全面改築。」『日経産業新聞』1996年4月3日, p. 17.
- 「京阪グループ、鳥取・大山の中腹、スイス風ホテル7月にオープン。」『日経産業新聞』1997年1月29日
- 「洞ノ原遺跡の保存など要望 大山町教育長に開発反対住民ら」『朝日新聞』1997年8月20日(朝刊鳥取)
- 「知事に全面保存要請 県は移築保存を説明 妻木晩田遺跡群」『朝日新聞』1998年1月9日(朝刊鳥取)
- 「弥生最大級の高地性集落 妻木晩田遺跡群 ゴルフ場か現地保存か—鳥取」『毎日新聞』1998年4月23  
日(朝刊大阪), p. 2.
- 「新観光施設『みるくの里』完成、畜産物販売やレストラン—大山の牧場で一休み。」『日本経済新聞』1998  
年4月29日(地方経済面中国B), p. 35.
- 「オピニオン—地域・論争・対話 言—妻木晩田遺跡群 佐古和枝さん みんなで支援を」『毎日新聞』  
1998年7月4日(朝刊大阪文化), p. 4.
- 「四季の花を楽しんで、山梨県立フラワーセンター、6日開業—花き生産振興拠点に。」『日本経済新聞』  
1998年8月1日(地方経済面山梨), p. 25.
- 「妻木晩田遺跡群をめぐる動き」『毎日新聞』1999年4月10日(朝刊大阪), p. 25.
- 安味伸一「朝夕さわやか スイスの民族楽器「アルプホルン」の音色—北海道・歌志内西小」『毎日新聞』  
2000年6月16日(北海道夕刊), p. 1.
- 「ミルクの町」売り出そう! 野村に農業公園 あす19日オープン = 愛媛」『読売新聞』2000年7月18  
日(大阪朝刊愛媛2), p. 29.
- 「搾りたて牛乳利用、スイス風レストラン開店 愛媛の農業公園／高知」『朝日新聞』2000年7月27日  
(朝刊高知2), p. 26.
- 「あえぐ地方テーマパーク、地域振興の思惑揺らぐ—苦境の各施設、懸命の再建築。」『日本経済新聞』2000

年8月28日, p. 30.

「京阪が『一時中断』、米子の事務所も閉鎖へ 大山スイス村」『朝日新聞』2001年3月15日（朝刊鳥取1）, p. 31.

田中成之「京阪電鉄の大山スイス村構想 整備を一時中断」『毎日新聞』2001年3月27日（島根地方版）, p. 26.

「神鍋高原、玄関口をスイス風に 日高町のJR江原駅前が一変／兵庫」『朝日新聞』2001年7月28日（朝刊兵庫1）, p. 29.

「東北のリゾート法承認地域、破綻・清算…苦境続く—自治体に重い負担。」『日経金融新聞』2002年10月24日, p. 10.

「りんどう湖ファミリー牧場 ハイジの世界に触れる＝栃木」『読売新聞』2005年4月22日（東京朝刊栃木3）, p. 30.

「山梨県フラワーセンター来春魅せます—花とヤギ『ハイジの村』に」『日本経済新聞』2005年12月23日（地方経済面山梨）, p. 25.

「大恐竜探検館、30日まで 閉館惜しみ混雑＝埼玉」『読売新聞』2006年9月17日（東京朝刊埼玉2）, p. 26.

「大糸線、観光で活性化狙う—魅力発信へ知恵集結を（信州レポート）」『日本経済新聞』2009年9月16日（地方経済面長野）, p. 3.

「ヨーデルの森、客倍増 動物とのふれあい好評 三セクから民間委託奏功／兵庫県」『朝日新聞』2012年3月6日（朝刊播磨・1地方）, p. 35.

「[まちの宝物] 神崎農村公園ヨーデルの森 体験観光 地域が協力＝兵庫」『読売新聞』2018年8月22日（大阪朝刊神明2）, p. 28.

「スキー場、営業休止へ 雪不足など、再開めどたたず 京丹後・スイス村」『朝日新聞』2019年11月27日（朝刊京都・1地方）, p. 33.

「(そこが聞きたい) 高齢化・経営難『山を売るしか』 霧ヶ峰メガソーラー計画、地権者らに聞く／長野県」『朝日新聞』2020年2月25日（朝刊長野全県・1地方）, p. 17.

「那須高原りんどう湖ファミリー牧場、『りんどう湖ハイジの丘』オープン」『観光経済新聞』2020年9月26日配信、<https://www.kankokeizai.com>（2021年4月6日閲覧）

#### 参考サイト

Wien Museum Online Sammlung <https://sammlung.wienmuseum.at/en/object/567652-weltausstellung-1873-schweizerhaus-von-risold-zuerich-nr-672/>（2021年4月2日閲覧）

メナード青山リゾートのオフィシャルサイト「コテージ『スイス村』」、<https://www.menard.co.jp/resort/sp/stay/cottage/cottage.html>（2021年4月7日閲覧）

大自然で体験宿泊 森林公園スイス村「アウトドアを満喫：コテージ」、<http://swissmura-homepage>.

## 日本各地で派生した「スイス村」計画の変遷と現状

[mints.ne.jp/swiss/stay-outdoor/cottage/](https://mints.ne.jp/swiss/stay-outdoor/cottage/) (2021年4月4日閲覧)

廃墟探索地図「田沢湖スイス村」、<https://haikyo.info/s/12711.html> (2021年4月5日閲覧)

スイス村ワイナリー「会社概要」<http://www.swissmurawinery.com/company/> (2021年4月5日閲覧)

花と幸せのテーマビレッジ・ハイジの村・山梨県立フラワーセンターのオフィシャルサイトのトップページ、<http://www.haiji-no-mura.com/> (2021年4月6日閲覧)